

令和7年度 小・中学校における環境教育の取組み

総合的な学習の時間（第5・6学年）

テーマ【給食から始めるエコライフ】

八尾市立安中小学校

《学習のねらい》

- ・自分たちにできる給食の生ごみ減量法を考え、計画を立てて実践する。
- ・生ごみの循環を体験し、課題意識から当事者意識へと深化させる。

《学習の流れ》

実施時期：令和6年12月～令和7年11月

- ・令和6年12月（第5学年）
 - ① 給食の食品廃棄物（食べ残し・調理残渣）の現状を知る。
 - ② 自然のしくみ（奈良公園の鹿の糞・自然界の循環）を学ぶ。
 - ③ 農家の知恵（稲わらやし尿を活用した肥料づくり）を知る。
 - ④ 給食の食品廃棄物で堆肥づくりに挑戦する。
- ・令和7年4月（第6学年）
 - ⑤ 出来上がった堆肥を使い、学級園でポップコーンを栽培する。
- ・令和7年9～11月（第6学年）
 - ⑥ ポップコーンを収穫する。
 - ⑦ 調理残渣を減らすことや環境への配慮（洗剤の多用、水の使いすぎ等）を意識しながら調理する。
 - ⑧ 試食する。



《指導のポイント》

- ・「課題を自分ごとにする」指導
 - ① 給食の残渣を「自分たちが出しているもの」と認識させる。
 - ② 「なぜ減らす必要があるのか」を問い続けさせ、児童自身の生活や家庭と結びつけて考えさせる。
 - 課題意識から当事者意識へと深化させる。
- ・「循環の全体像を体験させる」指導
 - ① 廃棄 → 堆肥化 → 栽培 → 調理 → 食べる → 再び廃棄、という一連の流れを体験させる。
 - ② 各段階で「次につながる問い」を設定し、学びを連続させる。
 - 知識と体験を統合し、循環の仕組みを「実感」として理解させる。

《活用したプログラムや教材、ゲストティーチャー 等》

ゲストティーチャー：令和6年12月 本校校務員

《成果》

- ・児童の意識・態度の変容
 - 給食の食べ残しや調理残渣を「ごみ」ではなく「資源」と捉える視点が育った。
- ・知識と体験の統合
 - 自然界の循環や農家の知恵を学び、堆肥づくり・栽培・調理・試食まで一連のプロセスを体験したことで、学びが断片的でなく「循環の全体像」として理解できた。